

# 営農だより 第3号

2023年(令和5年)4月5日  
北駿産米改良推進協議会  
JAふじ伊豆御殿場営農経済センター  
TEL : 0550-84-4820

おいしいをつくりましょ。

富士伊豆農業協同組合

目標

- ①『米ぬか入り肥料』の施用により、循環型農業の実践
- ②粒張が良く、食味値80点以上の良食味米

一人ひとりの取組意識が

「ごてんぼこしひかり」のブランド力を高めます

期間の前半を中心に暖かい空気に覆われるため、向こう1か月の気温は高い見込みです。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる予想となっています。時間帯によってハウス内の気温が変わりやすい気候ですので、徒長苗等が発生しないように育苗の温度管理には充分注意しましょう。

良食味米栽培にとって『播種・育苗』が最も重要な時期となります。昔から**苗半作**と言われるように、苗の良し悪しはその後の稲姿に大きく影響します。①**薄播き**すること②**温度管理**③**水管理**に充分注意を払い、活着の良い充実した苗を育て、今年度も**粒張が良く食味値80点以上のお米**を作りましょ!!今回は育苗管理を中心に紹介します。

《播種》～薄播きは健苗育成の第一条件です

	播種期	播種量(箱当たり)		必要箱数
		乾籾	催芽籾	
稚苗	田植え前 20～25日	115g	150g	16～18箱/10a (3～4本植え)
中苗	田植え前 30～35日	85g	110g	21～22箱/10a (3～5本植え)

薄播きは健苗育成の第一条件です!!  
播種量が多くては、健苗に育ちません。

稚苗の場合

育苗期間が短い。使用苗箱数が少ない。

中苗の場合

少ない播種量で1本1本が太く充実した健苗。穂になる率が高い。穂揃いが良くなる。初期の段階で藻類に負けない。しかし育苗期間が長い。葉齢3.5葉まで(約30～35日)の管理が必要。

☆中苗は品質向上技術として有効です。

《培土使用量》～使用量を間違えると、苗の生育に影響するので注意～

「合成培土3号」 床土1.8kg 覆土1.1kg 7.0枚/袋 1,060円/袋(20kg)税込  
「宇部培土」 床土2.5kg 覆土1kg 5.7枚/袋 1,100円/袋(20kg)税込

《播種時の灌水》～十分に灌水する。(灌水量は、使用する培土によって異なる)

目安は、床土を握って指の間から水がにじみ出る程度。

この時灌水量が不足していると発芽不良や籾上がりなどが発生しやすくなります。

灌水時に苗立枯病防除薬を使いましょう。

**覆土後の灌水は、酸素不足により発芽障害の原因となるので絶対にしない!!**

《カビによる立枯病予防剤の散布》

播種時(購入培土の場合も必ず使用)

ダコレート水和剤 → 100g/60ℓ 600倍 → 120箱分 1箱500ml灌水  
(リゾープス菌・トリコデルマ菌・フザリウム菌)  
ダコニール1000 → 100ml/80ℓ 800倍 → 160箱分 1箱500ml灌水  
(リゾープス菌)  
タチガレエースM液剤 → 100ml/50ℓ 500倍 → 100箱分 1箱500ml灌水  
(ピシウム菌・フザリウム菌)

※3種類からどれか1つを選択し使用する。

《苗管理》

- 1) 育苗ハウスの床を均平にする。
- 2) 温度計の設置(最低・最高付)必ず苗の近くに置く。
- 3) 覆土が終わったものから育苗器に入れ28～30℃に設定(30℃以上にはしない)。  
(途中で育苗器を開けて苗箱を乾燥させると籾上がりの原因となる)
- 4) 出芽後、芽が出揃ったらハウスに広げ、ラブリットで保温する。

(3日間を目途に被覆し、緑化を促す)

ただし、出芽から緑化期までは、低温に注意する。

例) 『ハウス内で最低気温5℃以下が続く場合』

夜間のみ保温シートを使用し、朝はがす。

保温シート(ラブリット、ミラシートetc)や窓の開閉で温度管理を行う。

緑化後は・・・**昼間25℃以上に上げない。**⇒ハウスの開け閉め。

**夜間10℃以下に下げない。**⇒午後早めにハウスを閉め温度を下げない。

育苗器内ではうど芽を伸ばしすぎないでください。

霜が降りるほどの低温になる場合はストーブなどの暖房器具を使用して保温しましょう。

〔ハウスで出芽させる場合〕

播種した育苗箱をハウス内で平置きにし、シルバーラブなどで被覆し保温させる。全ての芽が出揃ったら緑化に向けた管理を行う。

※ミラシート、シルバーラブのかけすぎに注意!!

晴天時、密閉状態のハウス内は1時間で10℃以上温度が上昇します。焼き苗防止のため、外出の際は換気対策を十分に行いましょう。

※プール育苗ではミラシート・シルバーラブ不要

プール育苗では水位を均一に保ち、高温にならないよう注意しましょう。霜注意報が発令した場合は深水にしましょう。(緑化以降であれば霜が降りなければハウスを開け放しても大丈夫です。)

[1~2葉期]

1~2葉期(緑化期)を20~25℃の間に管理することが理想の苗形をつくる基本です。

高温 30℃以上で長い苗になる

低温 20℃以下で短い苗になる

[2~3葉期]

高温 30℃以上。苗丈 15 cm以上の徒長苗になる

低温 20℃以下。10 cm以下のズングリ苗になる

播種~	2~3日間	4~15日	16日~田植えまで
被覆	3日間を目途に出芽。ハウスに並べた箱からラブシートをかける。	約3日間被覆する。緑化終了の目安は第1葉が完全に展開した頃。	日中は被覆資材不要、夜間冷える時は早めにハウスを閉める。
温度	昼 30℃ 夜 30℃	20~25℃ 15~20℃	15~20℃ 10~15℃
灌水	播種時に床土に1~1.2ℓ/箱程度灌水。	基本的には1日1回。雨の日は量を減らすか、やらない。	1日1~2回。14時頃までに灌水。夕方は灌水しない。夜温が下がると根張り低下。
換気	30℃以上になる場合は換気を行う。	25℃以上の場合はハウスを開ける。	日中はハウスを全開にし、外気に慣らす。風には直接当たらない。
その他	うど芽の長さは10mm以内。長いと徒長苗になりやすい。	根張り・苗質はここで決まる。苗が最も伸びる時期。温度・水管理に気を付ける。	緑化し、第1葉が完全に展開したら徐々に日光に当てながら自然環境に慣らす。
プール育苗		緑化期以降は湛水管理となり、昼夜とも窓は開放状態。霜注意報等で10℃以下が予想されない限りハウスを閉める必要はない。(緑化したら水を入れる。)	

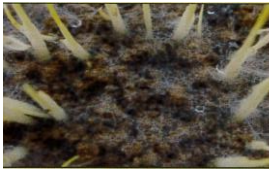
保温資材一覧

- ・ラブシート
- ・ミラシート
- ・シルバーラブ

苗を保温するシートです。長い期間かけないよう気を付けましょう。

《苗の病気》 ~苗の菌による苗立枯病の症状は下図の4つです

- ◎出芽後、部分的に綿状のカビが発生していることがあります。少量で、水をかけて消える程度であれば問題ありません。発生がひどい場合はご連絡ください。
- ◎エコ栽培米で「エコホープDJ」を使用した場合は青色のカビのようなものが発生することがありますが、この場合は薬が効いている証拠ですので問題ありません。(エコホープの菌株が籾表面で増殖することで、病原菌を抑制します。)

病原菌	病徴・診断	農薬	発病条件	
リゾープス属菌	発芽~緑化初期に退色し生育が悪くなる。地面より上方に灰色のカビが一面に発生。	ダコレート水和剤	高温・多湿条件下で発生。	
フザリウム属菌	地際部の葉鞘が褐変腐敗し、白色又は淡紅色のカビを生じる。	ダコレート水和剤 タチガレエースM液剤	播種後低温や床土の乾燥・過湿の繰返しによる。	
ピシウム属菌	地際部や根が水浸状に腐敗し、白い綿状のカビを生じる。	タチガレエースM液剤	低温・過湿条件下で発生。	
トリコデルマ属菌	葉鞘や不完全葉が黄化・褐変・枯死し・籾や床土に白いカビを生じ、後に青緑色になる。	ダコレート水和剤	高温・過湿条件下で発生。	

播種にタチガレエースM液剤を施用された苗、JA育苗センター(御殿場地区)で苗を購入された方は、タチガレエースM液剤は施用しない。※JA苗(御殿場地区)は施用済みです。またダコニール1000を散布した苗でタチガレエースM液剤を散布する場合は、ダコニール1000の散布10日後以降に行う(薬害発生の恐れあり)。